

Taonga 通信 vol.2 2017/11

2016 年度 3 次隊 渡邊あすみ (コミュニティ開発、マラウイ)



みなさん、ムリウーリ？(マラウイ北部の主要言語であるトゥンプカ語の挨拶で、How are you?の意味です。)日本では紅葉の秋も終わり、冬に向けて寒くなって来ている頃でしょうか。マラウイでは、11月~12月の今の時期が1年で最も暑い時期です。任地のカロンガはとても暑く、毎日たくさん汗をかきながら村で活動しています。マラウイに赴任してから早いもので11か月が経ち、もうすぐ任期の折り返しを迎えます。活動先の村では知り合いが増え、村に行くとなんかみんなが声を掛けてくれ、村の人たちに日々元気をもらいながら、暑さに負けず元気に活動しています！

マラウイの食文化



▲白いものが「シマ」。
おかずはチキン、豆、野菜

マラウイの人々は主食として「シマ」を食べます。シマとは、メイズ(トウモロコシ)の粉をお湯と混ぜて練ったもので、シマを食べる時は、フォークやスプーンは使わずに手で丸めて食べます。「シマを食べないと、食べた気にならない」と言うほど、マラウイの人々にとって、シマは大事な食べ物です。そして、みんな「マラウイにいるなら、シマを作れないといけないよ!」と言って、シマの作り方を教えてくれます。シマは無味のため、味が付いた魚や肉、豆や野菜等と一緒に食べます。

マラウイは雨季(11月~5月)と乾季(6月~10月)があるのですが、雨季にはどこを見てもメイズ畑(トウモロコシ畑)。12月にメイズを植えて、4月に収穫をし、そのメイズで次の収穫までの分を賄います。4月には同僚のメイズの収穫を手伝ってきましたが、全て手作業のため、時間と手間が掛かります。早朝から夕方まで、時々畑の真ん中で紅茶(マラウイ人は、砂糖たっぷりのとっても甘い紅茶を好みます)を飲んで休憩をしながら、親戚や友人と一緒に作業をしました。収穫後のメイズは、トラックではなく、牛車で町中の家まで配達します。収穫は大変な作業ですが、1年分のメイズを確保するので、マラウイの人々にとってはとても大事な作業です。



▲みんなでメイズの収穫



▲1日の収穫はこの牛車2台分

最近の活動報告

カロンガ県コミュニティ開発事務所で活動をし始めて約10か月が経ちましたが、Pachoko Pachoko(少しずつ)様々なことに挑戦しています。主な活動内容はビジネスグループの支援ですが、ベーカリーグループ、ヤシの葉で雑貨を生産するグループ、モリンガパウダー(※1)生産グループ等、複数のグループを支援しています。それらのグループに対し、収入向上のためにパンやビスケットの作り方を教えたり、商品開発や、その他商品のパッケージングのアドバイス、原価計算のレクチャー等をしています。村では特に、日本では簡単に入手できる情報も入手できず、手に入る情報が限定的になってしまいます。そのため、外国人だからこそ得られる情報やアイ

ディアを共有したり、改善点のアドバイスをを行っています。

日本では当たり前のことが当たり前でなく、物事がなかなか予定通りに進められないマラウイ。予定していた時間に人が集まらないことが多く、前日や当日に確認の連絡をしておいても直前に予定がキャンセルになることも少なくはありません。私の任期は2年間と限られているため、物事が上手く進まずに焦ってしまったり、イライラしてしまったりすることもあります。外国人である私を温かく受け入れてくれ、より良くするために私の働きかけに対して自ら行動を起こしてくれる人たちを見ると、とても嬉しくなります。

(※モリンガとは・・・北インド・パキстанを原産国とするワサビノキ科ワサビノキ属に属する多肉質の落葉樹。90種類の栄養素が含まれ、300もの病気を予防する、「奇跡の木」と呼ばれている。)



▲ヤシの葉で小物を作るグループ



▲商品のアドバイスをしているところ



▲モリンガパウダーを生産しているグループ ▲ベーカリーグループ

マラウイで頻発する停電・断水

赴任当初から停電・断水はありましたが、今は特に停電・断水が頻発する時期です。断水になると、人々の生活の中で水がいかに大切であるかを感じます。料理、洗濯、トイレ、シャワー、何をするにも水は必要。日本で生活していると、水はいつでも使えるのでついつい無駄使いしがちでした。

また、停電になると、七輪で火を起こして外で料理をしたり、ソーラーチャージャーに頼ったりと不便なことはありますが、停電の時は光が全くないため、星が綺麗に見える！外に出て夜空を見るのが停電の時の楽しみです。



それではみなさん、Tionanenge (See you)!

マラウイの子供たちは、子供の頃から家の手伝いをよくします。井戸の水くみ、火おこし、薪拾い、料理、食器洗い、洗濯等。

6歳くらいのこんなに小さい子供でも、母親と同じ様に、一人でナイフを持ってキャッサバの皮を上手に剥いています。小さい時からとってもたくましいマラウイの子供たち。彼らからはたくさんを教わっています。